

## 社会学部報

### ◇学部研究会

- 57年5月26日 発表者 加藤春恵子教授  
「ロンドンにおける女性運動 — コミュニケーション・ネットワークの視点から —」
- 57年7月30日 発表者 村川 満教授  
「ピュリタン革命の中のウエストミンスター会議」
- 57年9月29日 発表者 船本 弘毅教授  
「デイトリッヒ・ボンヘッファーの（倫理学）の根本思想について」

### ◇会員の新著

- 西山, 遠藤, 牧各教授「尼崎市歯科患者調査結果報告書」（非売品）昭和 56 年 10 月
- 中野秀一郎教授「社会システムの考え方」（共著）昭和 57 年 1 月 有斐閣
- 佐々木薫教授「現代社会心理学の発展」（共著）昭和 57 年 2 月 ナカニシヤ出版
- 田中国夫教授「Interaction Processes between Human Behavior and Environment」昭和 56 年 12 月 文成印刷
- W.B. デーヴィス教授「地方史研究の諸視角」昭和 57 年 2 月 国書刊行会
- 中野秀一郎教授「アメリカ保守主義の復権」昭和 57 年 6 月 有斐閣
- 真鍋一史教授「世界政治ハンドブック」（共著）昭和 57 年 4 月 有斐閣
- 加藤春恵子教授「うその社会心理」（共著）昭和 57 年 6 月 有斐閣
- 津金沢聡広教授「マス・メディアの社会学」昭和 57 年 10 月 世界思想者

### ◇海外出張

- 加藤春恵子教授 昭和 56 年 9 月 8 日から 57 年 3 月 24 日まで「コミュニケーションの比較社会学的考察に関する方法論の検討及びフィールドワーク」を行なうためイギリスへ。
- 倉田和四生教授 昭和 57 年 6 月 7 日から 6 月 15 日まで「中国吉林大学訪問」のため中国へ。
- 森川 甫教授, 山本剛郎助教授 昭和 57 年 7 月 16 日から 8 月 8 日まで「海外諸大学視察旅行」のためヨーロッパ・アメリカへ。
- 安藤文四郎助教授 昭和 57 年 7 月 17 日から 8 月 24 日まで「スタンフォード大学夏期語学プログラム」のための付添いとしてアメリカへ。
- 山路勝彦助教授 昭和 57 年 8 月 7 日から 58 年 3 月 10 日まで「台湾高山族の社会人類学的研究（特別研究員）」のため台北へ。
- 武田 建教授 昭和 57 年 8 月 20 日から 8 月 28 日まで「関西学院高等部アメリカン・フットボール部の遠征」に同行するためアメリカ・ハワイ州へ。
- 春名純人教授 昭和 57 年 8 月 23 日から 9 月 3 日まで「キリスト教哲学会第 2 回国際シンポジウム」に講演者として出席のためオランダへ。

## 学 会 消 息

### ◇関西社会学部

第 33 回関西社会学会は、1982 年 5 月 29 日(土)、30 日(日) 愛知大学で開催された。

この学会では、本学の余田博通教授は、共同報告 I (豊川用水の開通と渥美農業・農村の展開)、遠藤惣一教授は、共同報告 II (自動車工業独身青年労働者の労働・生活・余暇—トヨタ調査を中心に—)、中野秀一郎教授は、理論 I でそれぞれに司会にあたった。

倉田和四生教授は、シンポジウム「産業と地域社会」において、討論者として問題の提起を行なった。

博士課程修了者の藤原英男氏は、「トールマンの 1951 年の心理モデル」について発表し、南育広氏は、「地方改良運動の諸相」について発表した。

### ◇日本新聞学会

日本新聞学会 1982 年度総会並びに春季研究発表大会は、去る 6 月 5 日(土)・6 日(日)両日、関西学院大学本学部において開催された。

幸い天候にも恵まれ、233 名の参加者を得、活発な研究討議が行なわれ盛会であった。

本学部からは「個人研究発表」の部で、芝田正夫専任講師の「読者施設としてのイギリスコーヒー・ハウス研究」と真鍋一史教授の「情報行動の研究—政治情報行動を中心として—」と題する研究報告がなされた。

また、日本新聞学会としては初の試みである「ワークショップ」では『情報公開とジャーナリズム』をめぐる諸問題が討議されたが、この司会者のひとりとして津金沢聡広教授が参加した。

なお、本学会開催に際し、関西学院大学、本学部事務室および本学部学生有志に大変お世話になった。特記して感謝の意を表わしたい。

### ◇日本グループ・ダイナミックス学会

日本グループ・ダイナミックス学会第 30 回大会が 1982 年 7 月 10・11 日の両日、関西大学において開催され、本学からは海野道郎助教授が「影響過程の数理分析」というテーマで研究発表を行なった。

### ◇人間—ロボット学大阪シンポジウム

人間—ロボット学大阪シンポジウム(大会長: 大阪府立大学工学部 浅居喜代治教授)が、1982 年 8 月 19 日と 20 日の両日、大阪千里の国立民族学博物館において開催された。本学からは杉山貞夫教授が組織委員会顧問として企画実施に参画し、同シンポジウムにおける総括講演を行なった。本シンポジウムには杉山ゼミの 3・4 年生全員が出席し、シンポジウムの運営に協力した。

### ◇国際キリスト教哲学者シンポジウム

Stichting voor Reformatorische Wijsbegeerte 主催の第二回国際キリスト教哲学者シンポジウムが 1982 年 8 月 23 日から 27 日までオランダのユトレヒト州ゼイスト市 Reformatorische Bijbelschool において開催され、本学からは春名純人教授が出席し、「宗教と科学と哲学」という主題で講演した。出席者は 13 カ国より 120 名であった。

### ◇国際人間工学会(International Ergonomics Association)

国際人間工学会連合第 8 回大会(大会長: 医療情報システム開発センター理事長 大島正光博士)が 1982 年 8 月 23 日より 27 日の間、東京の日本都市センターにおいて開催された。本学からは杉山貞夫教授が大会担当理事として大会の企画・運営にたずさわった。また 25 日の国際人間工学会の連合理事会において杉山教授は、同会次期会長に選任された。既に同教授は会長としての活動を開始し、1984 年カナダ・トロント市における

Industrial Ergonomicsに関する国際会議、および、同年予定されているハワイにおけるManagementと人間工学に関する会議の企画をはじめ、アジア・オセアニア地域での産業活動における人間工学の普及についての諸企画を、他のOfficersの協力のもとに開催している。同教授の会長任期は1985年夏イギリスにおいて開催される国際人間工学会連合第9回大会までの3年間であり、他のOfficersは米国より事務局長、西ドイツより財務、副会長はノルウェーよりそれぞれ選任されている。

#### ◇日本行動計量学会

日本行動計量学会第10回大会が1982年8月25日から28日の間、東京の国立国語研究所において開催された。本学からは海野道郎助教授が「意思決定過程モデルによる三人社会の分析」というテーマで研究発表を行なった。

#### 会員の所属学会一覧（追加）

村川	満	日本英文学会
		中世哲学会
		日本福音主義神学会
		日本カルヴィニスト協会
加藤	春恵子	日本社会学会
		関西社会学会
		日本新聞学会
		日本社会心理学会
		日本女性学会
		日本女性学研究会

執筆者紹介 (掲載順)

エドワード T. ホール	ノースウエスタン 大学名誉教授	岩 淵 千 明	社会学部大学院 博士課程後期課程
中 野 秀一郎	社会学部教授	田 中 国 夫	社会学部教授
倉 田 和四生	社会学部教授	牧 正 英	社会学部教授
山 本 剛 郎	社会学部助教授	西 山 美 瑛子	社会学部教授
遠 藤 惣 一	社会学部教授	赤 坂 真 人	社会学部大学院 博士課程前期課程
嶋 田 津矢子	社会学部教授	田 尾 正 子	社会学部大学院 博士課程前期課程
高 田 真 治	社会学部助教授	松 岡 敦 子	社会学部大学院 博士課程前期課程
海 野 道 郎	社会学部助教授	山 中 速 人	社会学部大学院 博士課程前期課程修了
真 鍋 一 史	社会学部教授		

社会学部研究会々員

会 長	武 田 建		
評 議 員	牧 正 英	杉 原 方	領 家 穰
	杉 山 貞 夫	春 名 純 人	真 鍋 一 史
会 計 監 査	森 川 甫	西 山 美 瑛子	
書 記	石 井 佐 兵 衛		
名 譽 会 員	青 山 秀 夫	大 道 安 次 郎	藤 原 恵
	小 関 藤 一 郎	蔵 内 数 太	岡 村 重 夫
	清 水 盛 光	栃 原 知 雄	(ABC順)
普 通 会 員	余 田 博 通	田 中 国 夫	西 尾 朗
	定 平 元 四 良	嶋 田 津 矢 子	萬 成 博
	本 出 祐 之	倉 田 和 四 生	半 田 一 吉
	遠 藤 惣 一	佐々木 薫	中 野 秀 一 郎
	張 光 夫	中 山 慶 一 郎	J.A. ジョイス
	宮 田 満 雄	船 本 弘 毅	津 金 沢 聡 広
	紺 田 千 登 史	村 川 満	安 田 三 郎
	W.B. デーヴィス	加 藤 春 恵 子	山 路 勝 彦
	海 野 道 郎	山 本 剛 郎	高 田 真 治
	安 藤 文 四 郎	芝 田 正 夫	

## 関西学院大学社会学部研究会々則

- 第 1 条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。
- 第 2 条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の交流を計ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行う。
- 1 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行
  - 2 研究会および講演会の開催。
  - 3 研究叢書の刊行。
  - 4 その他本会の必要と認める事業。
- 第 4 条 本会の会員は次の 3 種とする。
- 1 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
  - 2 普通会員 本会社会学部専任の教授、助教授、講師および助手。
  - 3 賛助会員 以上の外申込のあったもの。
- 第 5 条 普通会員は年額 19,200 円、賛助会員は年額 10,000 円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。
- 第 6 条 本会員および本学社会学部大学院生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は昭和56年度入学生より年額 1,600 円とする。
- 第 7 条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。
  - 2 評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
  - 3 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
  - 4 会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。
  - 5 書記は、社会学部事務長に委嘱する。
- 第 8 条 本会役員任期は 2 年とする。重任を妨げない。
- 第 9 条 本会会計年度は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第 10 条 総会は毎年 1 回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。
- 第 11 条 本会は事務所を本学社会学部におく。
- 第 12 条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

1982年11月25日 印刷

1982年12月 1日 発行

編集発行人 武 田 建

発行所 関西学院大学社会学部研究会  
〒662 西宮市上ヶ原一番町  
関西学院大学社会学部内  
電話(0798)(53)6111(代表)  
(内線) 4212

印刷所 株式会社 千葉出版  
〒652 神戸市兵庫区荒田町1丁目12-8  
電話 (078)531-4789(代)

**KWANSEI GAKUIN**  
**SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES**

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

---

No. 45

November 1982

---

---

The Study Association of Sociology Department

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**

Nishinomiya, Japan

---